

## ■野球部年表【明治期】

1901(明治34)年～1912(明治45)年

西暦(年号)	月日	項目	出典
1901(明治34)年	春	有志により野球の練習を始める。	【安部年譜】
1901(明治34)年	7月12日	戸塚運動場(後の安部球場)の新設を協議する。	【一世紀】
1901(明治34)年	9月2日	東京専門学校、早稲田大学と改称(10月開校)。	
1901(明治34)年	10月--日	安部磯雄、早稲田大学体育部長を囑託さる。	【安部年譜】
1901(明治34)年	11月3日	東京専門学校野球部発会式(初代部長安部)。同好の士が集まり早大野球部創設。体育部に初めて野球部が設置される。	【安部年譜】【二十五年史】【百年小史】
1901(明治34)年	11月10日	対学習院(四谷)、7対6(10対6とも)で勝利。早大の最初の対抗野球試合。新調のユニフォームは、白の葛城、平打紐、編上げで一着60銭。(審判田中仁之輔)。	【二十五年史】
1901(明治34)年	11月10日	大隈邸内において戦捷記念撮影	【二十五年史】
1901(明治34)年	11月11日	翌晩、寺町の西洋料理明進軒で戦捷晩餐会。(安部教授の招待)	【二十五年史】
1901(明治34)年	この冬	鎌倉冬期練習。(鎌倉師範校庭、宿富田屋)帰京前日、鎌倉帰省学生との試合、安部が10点以上の差に回向院相撲を懸賞にかけるも4点の差でのがす。	【二十五年史】
1901(明治34)年	この年	シカゴ大学と入学に関する連絡なる。(安部磯雄主導)	【HP学内】
1902(明治35)年	05月--日	対駒場農学校、12-5で敗北。	【二十五年史】
1902(明治35)年	07月--日	安部磯雄、高等予科々長となる。	【安部年譜】
1902(明治35)年	08月--日	安部磯雄、体育部長兼野球部長囑任。	【安部年譜】
1902(明治35)年	08月--日	宇都宮合宿。1箇月間。栃木県宇都宮中学校にて第一回夏季練習を行う。	【二十五年史】
1902(明治35)年	9月2日	本校の名称を早稲田大学に改称。大学部と専門部を新設し、大学部に政治経済学科、法学科、文学科を設置。創立20周年記念式典・早稲田大学開校式を実施。早稲田中学校長に坪内、同実業学校長に天野就任。	【早大略年】
1902(明治35)年	9月2日	体育部発足。この時剣道・庭球・端艇・弓術の6部で発足した。	【早体育局】
1902(明治35)年	09月--日	運動場完成と同時に体育部規則発表。運動場は総面積五千坪のうち、三千坪を野球に二千坪を庭球部にあて、また短艇三艘新造さる(時雨、青葉、常盤号)	【安部年譜】
1902(明治35)年	10月19日	早稲田大学開校式(記念日は21日であった)。東京専門学校は創立20周年を迎え、早稲田大学と改称された。大隈の政敵伊藤博文の来賓挨拶が感銘を与えた。午後5時頃から安部磯雄を先頭にホウズキ提灯行列で宮城へ向かった。野球部は、創立記念大会を行う。(20日か21日)	【二十五年史】
1902(明治35)年	10月--日	戸塚球場(現在の安部球場あと、学術総合センター)竣工。裏手の畑や竹藪を潰して今の処にグラウンドを造った。	【百年小史】【球場小史】【二十五年史】
1902(明治35)年	10月--日	対学習院(四谷)、14-2で敗北。	【二十五年史】
1902(明治35)年	11月--日	対独協中(目白)、15-5で勝利。	【二十五年史】
1902(明治35)年	12月--日	雄弁会発足(会長は安部磯雄)。	【一世紀】

1902(明治 35)年	年末	年末から翌正月:鎌倉冬期合宿。	【二十五年史】
1903(明治 36)年	03 月--日	安部磯雄、高等予科始業式にて訓辞す。 (1)高等予科は専ら実用的外国語を練習 (2)本校体育部は単に体育のみでなく徳育の涵養(カンヨウ)も努める仕組みで、本校の学風は体育部より発することを期すと。	【安部年譜】
1903(明治 36)年	10 月 10 日	最初の対外人戦。対横浜外人、9-7 で勝利。 切符に「拍手の外一切の弥次の行為を厳禁す」と安部部長。	【二十五年史】
1903(明治 36)年	11 月 21 日	慶應義塾大学と早稲田大学が初めて野球試合を三田綱町のグラウンドで行う (歴史的な第 1 回早慶戦)。 結果は 11 対 9 で先輩格の慶應義塾大学の勝利。	【早慶】
1903(明治 36)年	夏	浜松夏期合宿。愛知一中と対戦、大勝。	【二十五年史】
1904(明治 37)年	03 月--日	39 年まで前シカゴ大学投手メリーフィールド氏のコーチを受ける。	【二十五年史】
1904(明治 37)年	4 月 17 日	早稲田大学春季大運動会(戸塚運動場)。	【早体育局】
1904(明治 37)年	04 月--日	専門学校令により大学となる。	【HP学内】
1904(明治 37)年	5 月 27 日	対学習院(四谷)、14 対 7 で早大勝利	【二十五年史】
1904(明治 37)年	6 月 1 日	早稲田、対一高(弥生ヶ丘)、9 対 6 で早大勝利。 6 月 2 日慶応相次いで一高に勝利する:学生野球の王座が初めて一高から早慶に移った。	【時事】【真説・明治】
1904(明治 37)年	6 月 4 日	早慶再び戦い早稲田が 13-7(7対1とも)で勝利(三田)	【二十五年史】
1904(明治 37)年	06 月--日	早大野球部初優勝(一高、慶応、学習院を破る)	【安部年譜】
1904(明治 37)年	7 月 2 日	対横浜外人、28 対 3 で早大勝利(横浜公園)	【二十五年史】
1904(明治 37)年	7 月 11 日	早稲田や慶応との試合を練習と言うは、常勝一高野球部の負け惜しみと新聞「日本」が批判。	
1904(明治 37)年	7 月 20 日	対学習院(四谷)、延長 12 回、3 対 2 で早大勝利	【二十五年史】
1904(明治 37)年	7 月 29 日	(~8 月 11 日)龍ヶ崎夏期合宿。(茨城県龍ヶ崎中学校庭)。伊勢長旅館泊。	【二十五年史】
1904(明治 37)年	10 月 30 日	早慶戦(戸塚)、12-8 で早稲田勝利。早慶戦第 3 戦目にして慶応を迎えこれが戸塚球場での初めての対抗試合だった。	【二十五年史】【球場小史】
1904(明治 37)年	この頃	運動場そばの福田喜太郎の家に集まり更衣(百姓家と呼ぶ)。明治 41 年諏訪ノ森に合宿するまで。	【二十五年史】
1904(明治 37)年	この年	対横浜外人戦9対6にて快勝。	【野部HP】
1904(明治 37)年	この年	野球場増設、その開場式を兼ねて慶應、学習院、青山学院などを招きそれぞれ連破す。	【野部HP】
1905(明治 38)年	2 月 27 日	早稲田大学野球部選手の渡米決定、と朝日新聞が報道。	【朝日】
1905(明治 38)年	3 月 27 日	大渡米壮行早慶戦、1-0 で慶応勝利	【二十五年史】
1905(明治 38)年	4 月 4 日	第 1 回アメリカ遠征。安部磯雄の引率で早大野球部一三人、野球チーム初の海外遠征で米国へ出発(26 戦 7 勝 19 敗、6 月 29 日帰国)。この時は日露戦争のさなかであり空前の壮挙であった。	【二十五年史】【百年小史】
1905(明治 38)年	5 月 8 日	第 1 回早慶ボートレースが向島 1350m コースで開催。早稲田の勝利。	【早慶】

1905(明治 38)年	6 月 8 日	早稲田大学がスタンホード大学と渡米第一戦。試合の様態など、朝日が報ず。	【朝日】
1905(明治 38)年	6 月 21 日	安部磯雄、渡米記「野球漫評」で日米の野球を論じる。朝日がこれを掲載。	【朝日】
1905(明治 38)年	6 月 21 日	早稲田大学野球部、アメリカで転戦。「国民」で報ず。	【国民】
1905(明治 38)年	6 月 29 日	早稲田の野球遣米使節の一行が帰朝。対戦中に日露戦争勝利の報もあり、選手の活躍評判に。	【木村毅『日本スポーツ文化史』】
1905(明治 38)年	09 月--日	この秋より早慶3回戦の申し合わせ。早慶戦は今後秋に3回戦をもって雌雄を決することを約した。	【二十五年史】【球場小史】
1905(明治 38)年	10 月 12 日	対学習院、6-3 で勝利。	【二十五年史】
1905(明治 38)年	10 月 28 日	対慶応、慶応が早稲田を完封。5 対 0。(戸塚) 審判宮口、メリーフィールド。	【二十五年史】
1905(明治 38)年	11 月 9 日	対慶応、1-0 で勝利(三田) 審判中野武二	【二十五年史】
1905(明治 38)年	11 月 11 日	早慶第三戦、日本初のダブルアンパイア(球審と塁審)による試合が実現。3-2 で早大勝利(戸塚)。 応援団が組織され、早大は、海老茶色の三角旗、カレッジールにて応援。	【真説・明治】
1905(明治 38)年	この年	高杉野球部長就任。安部教授は運動部長専任。	【二十五年史】
1905(明治 38)年	この年	サンフランシスコ邦人会より、銀杯寄贈。	【二十五年史】
1905(明治 38)年	この年	大学部第一回得業式。	【HP学内】
1906(明治 39)年	4 月 5 日	対三高、8 対 0 で早大勝利。三高は翌日一高と試合をしたが、このとき早稲田は三高の応援をした。	【一高対三高野球戦史】
1906(明治 39)年	4 月 28 日	対米艦ウイスコンシン、7-1 で敗北。	【二十五年史】
1906(明治 39)年	5 月 12 日	対一高、6-1 で勝利。	【二十五年史】
1906(明治 39)年	5 月 25 日	対米艦ウイスコンシン、8-7 で敗北。	【二十五年史】
1906(明治 39)年	10 月 4 日	対学習院、4-3 で敗北。(学習院、審判、メリーフィールド)	【二十五年史】
1906(明治 39)年	10 月 13 日	対学習院、3-1 で勝利。(戸塚)	【二十五年史】
1906(明治 39)年	10 月 14 日	対横浜外人(横浜公園にて)、3-2 で敗北。	【二十五年史】
1906(明治 39)年	10 月 17 日	対学習院、15-3 で勝利(学習院)	【二十五年史】
1906(明治 39)年	10 月 28 日	対慶応、2-1 で早大敗北。戸塚グラウンド。 河野、日本初のディレード・スチールを行う。	【二十五年史】
1906(明治 39)年	11 月 3 日	対慶応、三田にて、3-0 にて早大勝利。	【二十五年史】
1906(明治 39)年	11 月 10 日	早慶対抗野球試合で応援団問題起こり、慶大の申し入れによって第三戦は中止。無期延期に。以後早慶対抗競技一切が中絶する。	【時事】【真説・明治】
1906(明治 39)年	11 月 16 日	11 月 11 日の早慶戦中止は応援団衝突の恐れから、と安部磯雄談を「時事」が詳細に報ず。→【時事】(押川、桜井を説く【五十年史】)	【二十五年史】
1906(明治 39)年	11 月--日	『都の西北』完成	
1906(明治 39)年	この年	対横浜外人アマチュア、12-2 で勝利。	【二十五年史】
1906(明治 39)年	この年	対米艦、5-2 で敗北。	【二十五年史】
1907(明治 40)年	03 月--日	安部磯雄、野球部長辞任。	【安部年譜】

1907(明治 40)年	4 月 4 日	大隈重信総長就任。校長・学監制を廃し総長・学長制を採用。大隈重信総長、高田早苗学長が就任。創立 25 周年記念式典。校歌制定。	【早大略年】
1907(明治 40)年	4 月 14 日	対三高、8-2 で勝利。	【二十五年史】
1907(明治 40)年	5 月 3 日	対横浜外人、12-2 で勝利(戸塚)	【二十五年史】
1907(明治 40)年	5 月 26 日	対一高、6-2 で勝利(一高)	【二十五年史】
1907(明治 40)年	05 月--日	安部磯雄、早稲田大学教授に嘱任。	【安部年譜】【五十年史】
1907(明治 40)年	6 月 4 日	米艦メリーランド、5-2 で敗北(戸塚)	【二十五年史】
1907(明治 40)年	7 月 2 日	野球、早慶戦の代わりにリーグ結成の動き、と「東京朝日」が報ず。野球協会設立運動始まる。(早慶戦無期中止の確執を融和のため)	
1907(明治 40)年	9 月 28 日	対横浜外人、10-2 で敗北(横浜)	【二十五年史】
1907(明治 40)年	10 月 2 日	横浜アマチュアクラブのマクテュスニーの働きかけでリーグ戦結成か、と「時事」報ず。	【時事】
1907(明治 40)年	10 月 5 日	対横浜外人、12-1 で勝利(戸塚)	【二十五年史】
1907(明治 40)年	10 月 12 日	対横浜外人、3-2 で勝利(横浜)	【二十五年史】
1907(明治 40)年	10 月 20 日	早大創立二五周年記念式典、「都の西北」発表。創立 25 周年に校歌(『都の西北』相馬御風(ぎよふう)詞、東儀鉄笛(とうぎていてき)曲)制定	
1907(明治 40)年	10 月 24 日	早稲田大学で大学創立 25 年記念ボートレース(第四回競漕会)開催。	【国民】
1907(明治 40)年	10 月 31 日	(~11 月 19 日)慶応、ハワイ・セントルイスチームを招待。外国野球チームの初来日 (対慶応 3 勝 2 敗、対早稲田 3 勝 0 敗)綱町グラウンドで慶応と対戦時、初めて野球入場料徴収。(1 等 60 銭・2 等 30 銭・3 等 10 銭)	【渡辺融「武道と洋式スポーツの共存」】 【真説・明治】【功力泰雄「明治野球史」】
1907(明治 40)年	10 月--日	対米艦サブライ、8-1 で勝利(戸塚)	【二十五年史】
1907(明治 40)年	11 月 2 日	対学習院、8-7 で敗北(戸塚)二回戦:5-2 で勝利。11 月 30 日、6-1 にて勝利。	【二十五年史】
1907(明治 40)年	秋	横浜クリケット・アンド・アスレチッククラブ、横浜商業、学習院、早稲田で京浜野球リーグ結成。	【山本邦夫、棚田真輔『居留外国人による横浜スポーツ草創史』】
1907(明治 40)年	秋	京浜野球連盟、横浜外人アマチュア倶楽部の主唱で、学習院・横浜商業・早大で組織されるが、このシーズンのみで解散。優勝早大。(日本初のリーグ戦)	【二十五年史】
1907(明治 40)年	11 月 7 日	日本最初の外来チーム、ハワイ・セントルイス戦、11 月 07 日:2-0 で敗北。10 日、4-0 で敗北。16 日、9-2 で敗北。早大は三戦全敗に終わる。	【二十五年史】
1907(明治 40)年	11 月 8 日	ハワイの野球チームが来日し早慶と連戦、と「東京朝日」が報ず。	【東京朝日】
1907(明治 40)年	このころ	当時のユニフォーム:赤みをおびた霜振ネル、ズボンの前方には真綿を菱形に縫い、帽子には二本の海老茶の筋。スパイクは、渡米にて購入したものを試合のみ使用。平素は足袋で練習し、43 年ごろから常時スパイク使用となる。	【二十五年史】
1907(明治 40)年	このころ	試合当日の練習後は、たいてい大隈邸のそばの開盛亭の親子井であった。	【二十五年史】

1907(明治 40)年	このころ	横浜外人、学習院、横浜商業、早大の間に京浜野球団が結成され、その第一回リーグ戦に優勝。このリーグ組織は日本最初のものである。	【野部HP】
1907(明治 40)年	この年	大隈重信銅像除幕式。	【HP学内】
1908(明治 41)年	5月9日	対一高、3-2で勝利。(戸塚)	【二十五年史】
1908(明治 41)年	5月24日	対米艦クリーブランド、15-6で勝利。(戸塚)	【二十五年史】
1908(明治 41)年	5月31日	対横浜外人、9-2で勝利。(横浜)	【二十五年史】
1908(明治 41)年	08月--日	秋のワシントン大学招聘に際し入場料を徴収するため球場の周囲に木柵を巡らし、一、三塁の土手を利用してスタンドを造った。	【球場小史】
1908(明治 41)年	08月--日	戸塚球場に外野フェンスとスタンド設置。	【二十五年史】
1908(明治 41)年	09月--日	橋戸頑鉄、雑誌「冒険世界」に第四回オリンピック大会記事を通信。スポーツマンによる最初の記事。	【木村毅『日本スポーツ文化史』】
1908(明治 41)年	9月3日	(~10月10日)ワシントン大学来日、6勝4敗	
1908(明治 41)年	9月6日	早稲田大学の招きで、米国ワシントン大学の選手83名東京に到着。	【朝日】
1908(明治 41)年	9月19日	対ワ1回戦、4-2で敗北。9月23日2回戦、6-3で勝利。10月4日3回戦、4-1で敗北。4回戦、延長15回5-3で敗北。1勝3敗。すべて戸塚球場。この試合ではじめて入場料を徴収、入場料にてすべての費用捻出。	【二十五年史】
1908(明治 41)年	10月19日	米国東洋艦隊と歓迎試合を行う。対ヴァージニア、12-1で勝利。20日対ネブラスカ、5-0で勝利、21日対ウィスコンシン、15-1で勝利、対ネブラスカ4-2で敗北。3勝1敗。	【二十五年史】
1908(明治 41)年	10月19日	(~24日)アメリカ太平洋艦隊(東洋艦隊チーム)来日。各艦と早慶が野球試合を開催。米、早慶に1勝7敗1分	
1908(明治 41)年	11月8日	対東京倶楽部(早慶一高学習院のOB)、5-4で敗北。15日第2戦、6-2で勝利。	【二十五年史】
1908(明治 41)年	11月22日	米国職業人野球団、リーチ・オール・アメリカンスターチームが来日。職業人野球団が日本に来たのはこれが最初。 対リーチ・オール・アメリカン、5-0で敗北。大隈候による始球式。28日第2戦3-0で敗北。12月1日第3戦、13-2で敗北。3日第4戦、10-0にて敗北。全敗。	【二十五年史】
1908(明治 41)年	この年	この頃、元シカゴ大学選手ブレース宣教師として来朝、コーチをうける。	【二十五年史】
1908(明治 41)年	この年	選手合宿を戸塚村字諏訪に置く。その後、合宿は源兵衛より二転して、戸塚町454に移る。炊事の近藤つる女は大正十四年春まで勤続。	【二十五年史】
1909(明治 42)年	4月4日	羽田運動場開設。(総合運動場中、野球場、京浜電車経営)羽田穴守稲荷後方海岸。(早大野球部OBの尽力あり)	
1909(明治 42)年	4月10日	対三高、6-0で勝利。	【二十五年史】
1909(明治 42)年	4月18日	対東京倶楽部、5-0で勝利(羽田)	【二十五年史】
1909(明治 42)年	4月25日	東京倶楽部対慶大、羽田野球場にて開催。準早慶戦として人気を呼ぶ。3-1で東京倶楽部勝利。	【二十五年史】
1909(明治 42)年	5月8日	対一高、1-0で敗北(戸塚)	【二十五年史】

1909(明治 42)年	5月23日	対クリーブランド号、12-8で敗北。(戸塚)30日第二戦、4-2で敗北。(羽田)	【二十五年史】
1909(明治 42)年	9月20日	野球の早慶戦復活を早大が呼びかけ、と「東京朝日」が報ず。(申し入れは9月19日)	【二十五年史】
1909(明治 42)年	9月22日	米ウイスコンシン大学チーム来日、第一戦は慶応が勝つ。3A-2。来日09月16日-10月13日、4勝4敗。	【時事】
1909(明治 42)年	9月24日	対ウイスコンシン大、7-4で敗北(三田)10月7日:第二戦、5-0で敗北(三田)9日:第三戦、3-0で勝利(三田)	【二十五年史】
1909(明治 42)年	10月26日	早大の早慶戦復活申し入れを慶応拒否と報ず。(申し入れ拒否は10月19日)	【東京朝日】
1909(明治 42)年	10月30日	米艦サプライ、15-2で勝利(戸塚)	【二十五年史】
1909(明治 42)年	11月14日	対学習院、13-7で勝利。(目白)	【二十五年史】
1909(明治 42)年	11月21日	対横浜倶楽部、10-3で勝利(戸塚)	【二十五年史】
1909(明治 42)年	11月28日	稲門倶楽部対東京倶楽部野球試合、戸塚球場にて開催。9-6で稲門ク敗北。	【二十五年史】
1909(明治 42)年	12月5日	稲門倶楽部対東京倶楽部野球試合、戸塚球場にて開催。3-0で稲門ク勝利。	【二十五年史】
1909(明治 42)年	この年	西尾守一最初のマネージャーに就任。	【野部HP】
1909(明治 42)年	この年	飛田忠順氏が主将となる。	【球場小史】
1909(明治 42)年	この年	野球部OBによる稲門倶楽部設立。	【百年小史】
1910(明治 43)年	01月一日	安部磯雄、運動部長辞任し、野球部長に。高杉野球部長は副部長に就任。	【安部年譜】【二十五年史】
1910(明治 43)年	5月7日	対学習院 8-1にて勝利(目白)	【二十五年史】
1910(明治 43)年	5月15日	対一高、1-0で勝利。	【二十五年史】
1910(明治 43)年	5月22日	対学習院、9-0で勝利。	【二十五年史】
1910(明治 43)年	6月22日	(~09月02日)第1回ハワイ遠征。(安部引率)25戦12勝12敗無勝負1。このときPAC(ポルトガル人野球団:プナボ)との延長18回が早大の延長最長記録。	【二十五年史】
1910(明治 43)年	07月一日	早大二軍、東北遠征。(高杉教授引率)	【二十五年史】
1910(明治 43)年	9月26日	シカゴ大学野球チーム来日。10月29日まで。早大の招きで、東京で7戦、関西で3戦して全勝。以後5年毎に交感招聘することになった。	【二十五年史】
1910(明治 43)年	10月4日	対シカゴ大1回戦、9-2で敗北。8日:第二戦、5-0で敗北、第三戦、15-4で敗北。以上戸塚。兵庫で三戦したが、8-4、20-0、12-2でいずれも敗北。	【二十五年史】
1910(明治 43)年	12月下旬	和歌山県田辺中学校校庭にて冬期練習。(2週間・安部部長引率)	【二十五年史】
1910(明治 43)年	このころ	この頃、合宿は当時戸塚村といわれていた現在の西早稲田の諏訪の森にあった。	【球場小史】
1910(明治 43)年	この年	対米艦チャールストン、6-3で勝利。	【二十五年史】
1910(明治 43)年	春	対米艦ニューオリンズ、試合放棄。	【二十五年史】
1911(明治 44)年	3月14日	シカゴ大から招聘の早大渡米チーム、人選でもめる。安部部長辞職と東京朝日が報ず。	【二十五年史】
1911(明治 44)年	3月28日	第2回アメリカ遠征(~08月17日)早稲田、二度目の渡米 17勝36敗1中	【二十五年史】

		止(引率高杉瀧蔵教授)	
1911(明治44)年	4月22日	押川春浪組と安部磯雄組で野球の試合。安部投手49歳。飛田二塁手。	【二十五年史】
1911(明治44)年	04月--日	河野安通志、早大講師となり、野球部コーチとなる。	【二十五年史】
1911(明治44)年	06月--日	元早大野球部選手西尾守一、大阪朝日新聞のスポーツ専門記者となる。	【二十五年史】
1911(明治44)年	08月-09月	東京朝日の社会面に「野球の害毒」なる記事が載ったため安部部長をはじめ早大野球関係者が大いに反論し結果は野球側の勝利に終わる。	【野部HP】
1911(明治44)年	10月1日	対米艦オルバニー、4-1で勝利。	【二十五年史】
1911(明治44)年	10月8日	戸塚球場で明治大と対抗戦開始。早大が9対5で勝つ。	【五十年史】
1911(明治44)年	10月29日	三田・稲門のOB野球試合、南極探検隊後援のため入場料を徴収する。	【一世紀】
1911(明治44)年	11月4日	対明治、9-1で勝利。	【二十五年史】
1911(明治44)年	11月--日	戸塚運動場の敷地買収。	【一世紀】
1911(明治44)年	12月19日	早大野球部、慶応非難の決議書を発表。再び彼等と同一運動場に立たざることを決議。【万朝報】外国球団招待の時に同一運動場に立たない。『絶縁状』	【二十五年史】
1912(明治45)年	2月2日	河野安通志引率の下に第一回マニラ遠征。マニラの謝肉祭野球に出場。2勝3敗。(河野安通志監督)	【二十五年史】
1912(明治45)年	4月21日	押川春浪組と安部磯雄組で野球の試合。安部投手50歳。	【二十五年史】
1912(明治45)年	4月27日	マニラの陸軍選抜野球チームが、来日第一戦。1勝1敗。	
1912(明治45)年	5月11日	対一高、4-0で勝利。(戸塚)	【二十五年史】
1912(明治45)年	5月18日	対明大、4-2で勝利(戸塚)	【二十五年史】
1912(明治45)年	5月24日	対マニラ陸軍(慶応の招聘)、日本運動倶楽部主催のもと、5-4で敗北。(羽田)	【二十五年史】
1912(明治45)年	5月26日	対マニラ陸軍、2-1で勝利(羽田)	【二十五年史】
1912(明治45)年	05月--日	早大に皇太子行啓。御前講義を行ったのは次の博士。浮田和民-近代政治史、ウォーターロー戦後のナポレオン。有賀長雄-戦時国際法、ゼネバ条約。坪内逍遙-シェイクスピア、ウィンターズ・テールズ第4幕。天野為之一-商工政策、取引所改正問題。	【安部年譜】

(年表データに関する著作権は本村慎悟氏に属します)